

令和7年度現場見学会の実施報告

1. 概要

1. 日時: 令和7年12月3日(水) 8:15~17:10
2. 場所: 女川町プロムナード(震災復興事業・遺構見学)、東北電力女川原子力発電所
3. 参加者: 31名、スタッフ6名

2. 集合~移動

- ・仙台東口に集合し定刻少し前に出発しました。約1時間半かけて女川町に向かいます。



仙台駅東口の集合場所。参加者の皆さんは時間より早く集まつていただき、予定どおり出発できました



移動の車中は土木遺産のまつわるDVDを放映。筆者は高速道路会社でありながら車酔いしやすい体質ですが、運転手さんの技術で無難に過ごせました

3. 女川町の復興状況

- ・道の駅おながわにある「まちなか交流館」にて、女川町役場のご担当から被災状況~復興計画~復興事業について座学の講師をいただきました。復興計画の際の240回もの住民説明を行い、そのほとんどに町長が出席されたとのことで、真摯なご対応が合意形成と復興の促進に寄与されたものと思われます。
- ・その後海沿いの震災遺構(旧女川交番)、市街地を見学し昼食を摂りました。



まちなか交流館のロビー。女川町の歴史・審査復興計画の模型・パネルがありました



座学の状況。女川町の木村さん(左)・清水さん(右)に講義をいただきました



聴講中の参加者。皆さん真剣に聞いています



旧女川交番。津波で建物・基礎が横倒しになつたもの



防潮堤に頼らないまちをコンセプトに国道398号と防潮堤が一体構造となっています



JR女川駅を中心に交通結節点・震災復興・地域交流拠点として整備されています

4. 東北電力女川原子力発電所

・昼食後、女川原子力発電所に向かいいますが、一旦高台にあるPRコーナーで発電所の概要と注意事項の説明・入構手続きを行いました。2号機は2013年7月に制定された規制基準に適合するための補強工事が終わり昨年11月に再稼働し1年が経ったところだそうです。



職員の小笠原さん（左）・永井さん（右）から概要説明をいただきました



原子炉の1/2模型。内部の構造や制御棒の機能の説明をいただきました



説明中のスタッフの阿部さん。非常にわかりやすいプレゼンでした

・入構手続きを行い、発電所側のバスの乗り換え防潮堤・防潮壁の見学となります。発電所の規則でこれ以降は撮影禁止だったので文章のみとなります。まずは防潮堤、高さは海拔29mで漂流物（船舶・車両等）の衝突や地盤の液状化といった複合的なリスクにも対応できる構造となっています。次に防潮壁、津波襲来時に取水口・放水路からの海水浸入を防ぐためポンプ室などを囲む構造となっています。なお、防潮堤は今年度の土木学会技術賞を受賞したとのことです。

5. 終わりに

・仙台駅に到着したのが17:10、スケジュール通りでした。
・2箇所にてわかりやすく丁寧な説明と質疑をいただいたこと。女川町は町を挙げての復興が進んでいることを肌で感じることができ、女川原発の再稼働によりカーボンニュートラルがより進むことが期待できそうです。
・旧女川交番付近に当時小学校5年生だった児童が書いた詩がありましたが、心に響いたのでご紹介します。
『女川は流されたのではない。新しい女川に生まれ変わるんだ。人々は負けず待ち続ける。新しい女川に住む喜びを感じるために』

ご多忙の中ご説明を頂いた女川町様、東北電力様、道中の安全・快適な移動を確保いただいた東日本急行様、各種準備をいただいた土木学会事務局各位に心より御礼申し上げます。

《道の駅おながわでの昼食》

参加者の皆さんには海鮮丼屋さんに行かれていましたが、筆者はカレー屋さんに行きました。カツカレー、野菜100%ボルシチとのセット大盛サービスをいただきました。



（文責：東日本高速道路（株）田村 崇）